<table>
<tr><td>事業区分</td><td colspan="4">文化芸術事業</td><td colspan="4">鑑賞事業</td></tr>
<tr><td>事業名</td><td colspan="8">狂言公演　～茂山一門の世界～</td></tr>
<tr><td>目的・内容</td><td colspan="8">[趣旨・目的]
鳥取県内では２年ぶり、東部では５年ぶりの狂言公演を開催することで、熱烈な愛好者はもとより、広く県民に日本の代表的な古典芸能の鑑賞機会を提供する。また、鳥取で初お披露目の曲目を提供することにより、狂言愛好者の期待を高めると共に、伝統文化への更なる感心と興味を引き立て、当財団の使命である「文化人口の拡大とレベルアップ」及び戦略である「潜在的な鑑賞者の掘り起こしと文化支援者層の拡大」を図る。
[内容]
解　説：茂山千三郎
蚊相撲：茂山あきら、茂山童司、茂山茂、鈴木実
素袍落：茂山千五郎、茂山正邦、松本薫、島田洋海
梟　：茂山千三郎、丸石やすし、茂山茂、鈴木実
（プレ事業）「初めての狂言　笑いなんせぇの会」５／２６～２９　とりぎん文化会館フリースペース
（リピーター育成）「お座敷　狂言＆落語」８／２０　とりぎん文化会館小ホール</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="8">平成24年6月16日（土） 開演14：00</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td colspan="8">とりぎん文化会館　梨花ホール</td></tr>
<tr><td>入場料
（友の会）</td><td colspan="2">特等席　4，500円
（4，000円）</td><td colspan="2">一等席　3，500円
（3，000円）</td><td>二等席　2，000円</td><td colspan="2">大学生以下　1，000円</td><td></td></tr>
<tr><td>集客状況</td><td>入場者数</td><td colspan="2">490名</td><td>設定席数</td><td>1，180席</td><td>集客率</td><td colspan="2">42%</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業費状況</td><td>予算額</td><td>収入</td><td colspan="2">2，817，000円</td><td>支出</td><td>2，905，000円</td><td>収支比率</td><td>97%</td></tr>
<tr><td>決算額</td><td>収入</td><td colspan="2">1，781，900円</td><td>支出</td><td>2，747，755円</td><td>収支比率</td><td>65%</td></tr>
<tr><td>来場者
アンケート
（主なもの）

回答者数
440名</td><td colspan="8">・茂山狂言は娘の中学の教科書に「附子」が載っていて興味を持ち、それ以来娘と米子、鳥取と公演を観ています。千五郎さんの舞台はさすが感動しました。
・２度目になります。今日をずっと楽しみにしていました。子どもと一緒でしたが、雰囲気で楽しんでいました。前の席で表情も楽しみながら、良い時間を過ごさせてもらいました。
・初「狂言」でしたが大変楽しかったです。笑った!笑った！堅苦しいイメージでしたが、映画やドラマのように身近な感じがしました。次回は誰かと一緒に来ようと思いました。
・古い言葉でわかりにくいかと思っていたが、観ていると内容もわかりとても楽しめた。今も昔も面白いことで笑って楽しんでいたのだと思ったのと、すごくシンプルにわかりやすい芸術でそれゆえに演じる人の力量を感じた。はじめの解説がとてもわかりやすくて良かった。
・思ったより観客が少なく、茂山一門に申し訳ない気持ちでした。今まで大盛況だったので、若い観客の引き寄せが急がれると思いました。</td></tr>
<tr><td>1次評価
（内部）</td><td colspan="8">[成果]
・プレ事業は、オープンな空間（フリースペース）で無料で行い多くの鑑賞者を集めることができた。また、プレ事業でありながらプロ（本公演出演者）の出演と、本格的な会場設営によって、高い質が担保できた。
・リピーター育成事業の公演（狂言＆落語）は、新しい取り組みとして、古典芸能における時代をまたいだ‘笑い’を対比して鑑賞する機会を提供するなど鑑賞者の育成の上からも上質の事業が実施できた。
・本公演の評価は、アンケートによる満足度91％という非常に高い結果が得られた。
[課題等]
・主に東部地区で開催していた狂言公演を中西部地区で開催した。5年ぶりの東部公演ということで多くの集客を予想したが、期待通りの集客とならなかった。
・地区の特性、ホールの特性等を考え、ジャンルによっては同じ場所で実施し続けるという継続性が必要であることを感じた。</td></tr>
<tr><td>2次評価
（財団評議員）</td><td colspan="8">[成果]
（本公演について）
・公演内容は高く評価する。
（プレ、リピーター育成等について）
・プレ事業の内容（鑑賞、質問コーナー等）は鑑賞者の育成に適したものであった。
・プレ、及びリピーター育成事業は財団だからこそできる事業である。今回はとても親しみやすい（鑑賞の）環境づくりができており、古典芸能鑑賞者の掘り起こしには非常に良い事業であった。
・鳥取大学への古典芸能のレクチャーは、新しい顧客の開発の方向性を示すものになっている。
[課題等]
（広報、マーケティング）
・古典芸能を広く県民に伝えていくためには、広報においてさらなる工夫が必要である。
・目標値設定の根拠が曖昧である。
・広報チラシの配布が旧鳥取市内の小学校だけなのか、選定に疑問を感じる。中学高校へも、又は広く公平に情報が伝わることが大切である。
・古典芸能において（限らず）、同じジャンル（狂言、能、歌舞伎、落語など）、同じ演者、同じ演目でなく、新しいものが求められていないか、検証が必要である。
（連携）
・学校だけでなく市町村、デイサービス等の福祉施設との連携も検討を要する。
（その他）
・公演（本公演）とホールサイズの相性に関して、マイナス要素を感じた。鑑賞の満足度をさらに高めるには「心地よく楽しめる」ことが必要不可欠である。
・公演インターバルのスパンとして、5年間の空白は長すぎる。計画的な公演実施を行うこと。</td></tr>
<tr><td>今後の対応、
取組状況</td><td colspan="8">（広報、マーケティング）
・古典芸能のジャンル、演者（家元）、演目等について、他ジャンル含む総合的な県民ニーズ調査の中でその要望を把握していくことが必要である。
・広報手段において、古典芸能を広く県民に伝えるためには静止画である新聞掲載のほかホームページ等で動画の掲載が有効と考える。（評価担当者からのアドバイス）
（ジャンル及び開催場所のローテーション）
・古典芸能について、各ジャンルからの選択とローテーションについて、長期的な計画を今後立てていく。
・実施場所について、①鑑賞者拡大と②リピーターの定着、この二つの観点から事業の組み合わせを構築していく。
（鑑賞者開発）
・古典芸能について、鳥取大学で実施したレクチャーをその他の大学・専門学校等へ広げ、若い世代への伝承を図るとともに、留学生への鑑賞機会の提供を継続し、日本の伝統文化の世界への発信にも寄与していく。</td></tr>
</table>